

ちばの地域福祉

「被災地あさひ」における実践

中核地域生活支援センター海匝ネットワーク 所長 吉野 智

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では千葉県の旭市にも津波が押し寄せ、死者が14名、行方不明者2名という甚大な被害をもたらした。震災直後には市内11ヶ所に避難所が設けられ約2,000人が避難した。

旭市では震災から2ヶ月が経過した5月に避難所が閉鎖されたが、最後まで避難所にいた方の多くが市内2ヶ所、200戸の仮設住宅へ移行した。私たちは県の事業『被災要援護高齢者等の生活再建相談支援事業（H25～H26.6）／仮設住宅生活支援アドバイザー事業（H23～H24）』を受託し、仮設住宅に社会福祉士や臨床心理士など専門職員を常駐させ「孤立させない・生活再建」をコンセプトにこころのケアも含めた相談業務を開始した。そこに常駐することで、特異な体験から特異な生活へ移行してこころが疲弊している被災者に目に見えた安心を届け、見通しの立たない再建に向けて一緒に取り組む方向性を見据えることができた。仮設住宅には子どもから高齢者、障害のある方もない方も、そして外国人もいる。対象は仮設住宅で生活する人であり、縦割りの考え方はそもそも存在しなかった。まさに中核地域生活支援センターの実践の縮図がそこにあり、その実践に係るノウハウも結果的に活用されていたと言える。支援者が常駐していることで、ボランティアなど外からの支援をコーディネートすることもできた。ボランティアは様々な支援を届けてくれるが、必ずしもニーズにマッチしないことも多い。しかし、そこにコーディネーター的な存在があることで被災者のニーズと外部の支援者の想いをマッチングさせることができ、より有効に想いを届けてもらうことができた。足りないものはオーダーし必要なものは創ることができた。まさにソーシャルワークの原点が被災者支援にあると言えた。

今年5月。旭市の仮設住宅はその役割を終えた。再建への大きな一歩であるとともに3年間のコミュニティがまた大きく変わった。

東北の被災地を想い、旭市の被災者支援の実践も4年目に入っている。

中核地域生活支援センターの地域づくり

「安房圏域における地域づくり」

ひだまり 民内 順子

ひだまりの活動範囲は館山市、鴨川市、南房総市、鋸南町の3市1町です。鴨川市の事務所でスタートし、平成22年10月に館山市で同法人が運営する安房地域医療センターの敷地内に移転しました。安房圏域の人口は約13万人ですが、雇用企業も少なく、高齢化率35%を超え、人口減少に歯止めがかかりません。現在ひだまりが行なっている各分野での活動状況をご紹介します。

<高齢分野>

昨年度より新たな取り組みとして、ひだまりと各市町の地域包括支援センターとの意見交換会を始めました。安房圏域の地域包括支援センターは1市1町が直営で、2市が委託して運営しています。独居や高齢世帯が多く、そのような方々に対する地域の取り組みについての情報交換も中で、安房圏域の共通課題である交通の不便さや、精神障害や認知症などコミュニケーションが困難な方に苦慮している実態が明確になり、取り組む課題が整理されてきました。

<障害分野>

安房圏域の地域自立支援協議会は3市1町の協同設置となっており、ひだまりも発足当初から委員として参加しています。協議会には、相談、地域移行、就労、権利擁護の4つの部会があり、ひだまりは、相談部会と権利擁護部会の事務局を担っています。日頃の相談・援助の中から見えてくる課題に則したテーマで、話し合いや研修会を企画しています。例えば、携帯電話料金が生活を脅かしている相談が多く、料金の仕組み等、契約時の説明では殆ど理解することも出来ていません。そのような実態に対し、携帯電話会社の店長と直接意見交換することで、お互いに理解し合い、協働できることの確認を行ないました。

<児童分野>

安房圏域の児童デイサービスの事業所とNPO法人たからばこ(親と専門職からなる発達障害児者を応援する団体)と協同し、安房圏域の児童分野の課題や、新たなる社会資源の創出を目指し活動しています。その都度テーマに応じ、各関係機関や議員の方々にご出席いただき、勉強会等開催しています。今まで行なってきたテーマは、「障害をもつ子の親の視点からの地域の現状と課題」「保育士の視点からの地域の現状と課題」「不登校について」等です。これからも住みやすい地域づくりを意識し続けたいと思います。

【安房圏域】 中核地域生活支援センター ひだまり

【対象地域】 館山市・鴨川市・南房総市・鋸南町

【連絡先】 〒294-0014 館山市山本1155番地

TEL: 0470-28-5667 fax: 0470-28-5668

ちば・元気印！～こんなひとたち、見つけた～

喫茶「とまと・はうす」ではたらく人たち

鎌ヶ谷市総合福祉保健センター（鎌ヶ谷市役所併設）2階にある喫茶「とまと・はうす」にお邪魔し、NPO法人鎌ヶ谷市手をつなぐ親の会 理事長 飯高優子様からお話を伺ってまいりました。

喫茶「とまと・はうす」は長い歴史があり、今年で23年目を迎

えます。平成3年に総合福祉保健センターが新設され、鎌ヶ谷市より「センター内一部

を何か有効的に活用しませんか？」というお誘いがありました。そこで、障害者理解の啓発として障害のある方たちが働ける喫茶店を開こうということになったそうです。平成26年からは地域活動支援センター「あっぷる」の一つの事業として運営されています。

現在は「あっぷる」の利用者の中から3名（女性）が働いており、常勤スタッフ1名と親の会会員ボランティアの協力を得て営業しています。「お客さんと接するときはちょっと緊張する」「仲間と一緒に働けて楽しい」「今日はお給料日で嬉しい。お菓子やCDを買います」など生き生きとしたお声を聞くことが出来ました。

店内は明るくオシャレな内装でとても素敵なお店です。

自慢の珈琲（250円）は「とまと・はうす」オリジナルブ



レンドでまろやかな深い味わいになっています。珈琲豆も販売しています。なんとといってもおすすめメニューは軽食セット（530円）です。エビピラフセットは色合いも美しく、あっさりとしたヘルシーな仕上がりになっていて、また食べたくなります。鎌ヶ谷市にいらしたときは「とまと・はうす」でお食事いかがですか♪♪

飯高様は「とにかく親の愛情がぎっしり詰まった『とまと・はうす』です。親の会会員が23年間手をつないで頑張ってきました。今までの経験と実績を新しい世代へと繋げていきたい。」と話してくださいました。



場所：鎌ヶ谷市総合福祉保健センター2階（鎌ヶ谷市役所併設）

営業時間：月曜日～金曜日 10時～16時



ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

第20回 障害者グループホーム講座

グループホームの暮らし

【内容】 障害をお持ちの方の生活の場として広がりつつあるグループホームですが、一口にグループホームといっても様々な形のグループホームがあります。
本講座では、実際にグループホームで働かれている方々をお招きし、どのような支援を提供しているのか、入居者さんがどのような目的で利用しているのかなどをご紹介します。
グループホームの暮らしについて、改めて考えてみませんか？

【プログラム】 シンポジウム『さまざまな暮らし方の紹介』

シンポジスト：社会福祉法人公明会「インディペンデンス」世話人 萬崎 美由紀氏
特定非営利活動法人ウィズ「スマイル」生活支援員 本吉 瞳氏
特定非営利活動法人母里子ネット「かたつむりホーム」
生活支援員 中村 佳史氏

【日時】 平成26年8月22日（金）13：00～15：00（受付12：30～）

【会場】 山武健康福祉センター 3階 大会議室

【申込締切】 8月15日（金）まで **【参加費】** 無料

【申込】 氏名、所属、住所、ご連絡先を下記問合せ先まで電話・Faxにてお申し込みください。

【問合せ】 山武圏域障害者グループホーム支援ワーカー 齋藤（山武青い鳥工房内）

Tel：0475-72-9806 fax：0475-72-0704

2014年度 特定非営利活動法人 生活サポート千葉 研修会

罪を犯した障がい者・高齢者への福祉による生活支援

【日時】 平成26年10月31日（日）9：30～16：00

【会場】 千葉商工会議所 第1ホール（千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館14階）

【プログラム】 パネルディスカッション『受け入れ施設からの報告』

パネリスト：養護老人ホーム・特別養護老人ホーム
障害者支援施設・障害者相談支援事業所

進行：地域生活定着支援センター

講演『高齢・障がいのある犯罪行為者の理解と対応』

講師：水藤昌彦氏（山口県立大学准教授）

【参加費】 2500円 **【定員】** 144名 **【申込締切】** 10月20日（月）

【申込】 氏名、所属、住所、ご連絡先を下記問合せ先までメール・Faxにてお申し込みください。

【問合せ先】 特定非営利活動法人 生活サポート千葉 千葉県地域生活定着支援センター

Tel：043-224-5721

Fax：043-224-5720

Eメール：c-teichaku@sschiba.jp

【後援】 千葉県 千葉市 千葉県弁護士会 法務省千葉保護観察所

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：長生ひなた（長生圏域）茂原市長尾2694

TEL:0475-22-7859

FAX:0475-22-7844

編集：いちほら福祉ネット(市原圏域)市原市東国分寺台3-10-15 TEL:0436-23-5300 FAX:0436-23-5225

※内容についてのお問い合わせは、いちほら福祉ネット（担当：高地）までお願いします。